

みらいサポート こっちゃん 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 6月 15日

事業所名 みらいサポート こっちゃん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	75%	25%	室内で過ごす時間を少なくしている。密にならないよう未就学児童と小学生以上の児童とを分けて活動するようにしている。活動と学習のスペースを柵などで区切り分けている	あるスペースをうまく利用し、活動・学習・クールダウンスペースを確保するよう努めます。
	2	職員の配置数は適切である	50%	50%	「はい」と回答:基準は満たされている。 「いいえ」と回答:外出時など安全に療育できるか不安に感じることがある。シフトを組んでいないので分からない。制度上の基準は満たされていても、対一の療育や対応が必要な児童がいるため、制度上の配置での換算や、加配数ではどの事業所も不安を感じていると思う。	配置に不安なくまた安全に療育の提供ができるよう職員増加に努めていきます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	福祉用具などが必要な児童はいないが、施設内はフラットで障害物は少ない配置となっています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	75%	25%	朝終礼の他、定期的な職員会議で振り返り確認などを行っている。 引継ぎ簿だけでは全職員にまで広く	引継ぎ簿以外の方法も検討しています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	実施しています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	公開しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	80%	20%	年に一回程度、会社全体の事業所を対象に第三者評価を行っている。	昨年の実施時に現事業所がなかったため受けていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	定期的に年間の計画を立て、研修の機会を設けています。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	計画更新時の面談などコロナ化で直接お会いしての面談に感染リスクなどを考慮し、電話やリモート面談など取り入れ実施しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	75%	25%	面談を通してニーズを把握し、行動観察を記録し、個別支援計画を作成しています。	外部での発達検査結果などで、発達状況を把握し、支援計画に活かしています。

適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	立案のためのミーティングする時間を設け、チームで意見を出し合い立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	子供たちの状態や季節気候などに配慮し工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	67%	33%	個々に合った個別学習を取り入れている。	小中学生と一緒に学べる活動を探っています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個々に合った活動を提供できるよう計画の作成を行っている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼で支援開始前に前日の振り返りや、当日の打ち合わせができるよう余裕を持った時間での出勤の確保に努めている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	一日の振り返りや反省などをまとめ話し合っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	80%	20%	連絡帳や引継ぎ、バイタルや排せつなどここに記録しています。	支援の検証や、改善については、事業所内でのミーティングで行っています。パートタイム職員も参加のしやすい日時の設定を心掛けます。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	三カ月毎に状況報告を作成し報告や見直しを行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	75%	25%	行っています。	ガイドラインの内容を周知できていない職員へはすぐに周知できるよう努めます。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	75%	25%	担当職員が参画できている。	コロナ渦で、集まるのが難しくなっているため、開催が見送られ簡素な内容になっている。今後は、リモートなどを使用し、外部関係者などへの呼びかけなど工夫していきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	75%	25%	確認事項や引継ぎなど、送迎時に行っている。トラブル発生時には、すぐに保護者や学校と繋げられるように努めている。	こちらから予定表の配布などができていないと感じているので今後は、予定表など配布していきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	25%	75%	該当する児童がいない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	50%	50%	できる限り情報収集提供し総理解に努めている。	個人情報の観点などから保護者へ提供という形を徹底している園などもある為、スムーズにいかないと感じることもあるが、こちらからのアプローチはあきらめずに行っていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	33%	67%	該当する児童がいない	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	33%	67%	コロナ渦で地域の専門機関との連携が難しい状況ではあるが、専門機関が配信している研修動画を用いて研修など実施している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	75%	25%	地域の公園へ出向き機会を設けている	他の事業所の児童などとの交流は、同会社他会社ともにコロナ渦で行えていないが、情勢を見て行えるよう検討していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	50%	50%	地域の連絡会への参加を行っている。※現在は休止している。	コロナウイルス感染症が落ち着き開催されるようになったら各職員が順に参加ができるよう準備している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	60%	40%	できる限りアドバイスや情報の共有ができるよう努めている。	ペアレント・トレーニングのプログラムは行っていないが、対応方法などのアドバイスは行っている。
保護者への	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に質疑応答なども受けて説明に努めている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	悩みやわからないことなど助言や共に考えるなどの支援を行っています	子育てのお悩み以外にも制度に関することなども含めお気軽にご相談いただける事。相談のし易さなど改善に努めていきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	40%	60%	コロナ渦で開催できていない。	今後、感染症予防対策を徹底できる環境整備を行い開催できるよう検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	瞬時にスタッフ間で共有・対策を考え保護者へ説明・謝罪に努めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	75%	25%	写真公開サイトで活動の様子などの掲載を行っている。	本年6月より廃刊にしていたこっちゃん便りを復活させ、発行していきます。

説明責任等	35	個人情報に十分注意している	75%	25%	セキュリティーのあるネットワークで管理している	在職している職員であれば誰でも観覧できる状況に、不安を感じる職員もいます。各職員各々アカウントを作成しており、退職する職員がいた場合はそのアカウントを削除しています。また、詳細な個人情報などは管理者のみ観覧できるように設定しています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	絵や写真などの視覚カード、ホワイトボードなどを活用し、意思の疎通に努めています。保護者・職員間でも、使いやすいツールを使用し密な意思疎通に努めている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	20%	80%	地域住民にも参加してもらえるよう、自治会へ協力の依頼をしている。	昨年度の夏祭り時に参加してもらえるよう前年より進めていたが、コロナ流行により中止となっています。コロナ流行が収まり次第参加に向けて進めていきます。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	60%	40%	すぐに観覧できるところへ掲示をしています。	マニュアルはいつでも確認観覧できる場所に掲示しています。 保護者さまよりもどちらともいえない回答あり、今後は訓練方法やマニュアルの内容の報告を行っていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	75%	25%	他ケースを想定し訓練しています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	75%	25%	社内外ともに職員が参加できる研修の機会を設けている。	社外への研修は管理者児発菅が参加し、その内容を周知しています。 事業所内では、年計画に沿って研修している。 社外の研修にも責任者以外の職員が参加できるよう予定組を行っていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	33%	67%	該当者なし。	現在、実際にやむを得ず身体拘束を必要とする児童はいないが、必要とする児童がいる場合は保護者への十分な説明と、情報の共有や連携、計画への記載を行います。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	アレルギーのある児童がいる際には保護者さまより情報収集し、必要があれば医師の指示書を頂く準備をしている。	該当の児童はいないが、医師の指示書を頂けるよう準備していきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ヒヤリや事故については、報告書の作成並びに日々話し合い意見や共有に努めている。 また、月に一回の事業所内会議でも事例をもとに改めて共有している。	